

緊急時対応の手引

防災対策の心構え

正確な情報
冷静な判断
迅速な行動



東京経済大学

● 地震発生後の対応

① 大学で地震が発生したら

慌てず、まず身の安全を確保する

- ・ 緊急地震速報や余震に警戒する。
- ・ 机の下に潜り、バッグ、衣類などで頭部を覆う。
- ・ 廊下、運動場、体育館などでは中央部でしゃがむ。
- ・ あわてて外へ飛び出さない。

脱出口を確保する

- ・ 窓、ドアを開けて、ガラス付近から離れる。
- *授業中など教職員の避難誘導がある場合は、その指示に従って行動してください。避難誘導は構内非常放送でもお知らせします。

② 揺れがおさまったら

周囲が安全なら待機!

安全確認・初期消火に協力する

周囲が危険なら指定された避難場所へ!

- ・ 飛び出さない。
- ・ 落下物やガラスに注意。
- ・ 地面の亀裂、陥没や余震に注意。
- ・ エレベーターは使用しない。誘導灯が目印。

*学内の避難場所は(国分寺) 葵陵会館前広場、南門付近、(武蔵村山) サッカー場です。

● 大学で火災が発生したら 火災を発見した時には

逃げながら状況を報告

- ・ 逃げながら大声で周りに知らせる。
 - ・ 近くの非常ベルを押す。
 - ・ 初期消火ができるように近くの事務室または、
守衛所(☎042-328-7711)に知らせる。
- *各建物廊下にある緊急用内線も使用できます。
(守衛所:内線2250)

避難する場合の注意点

- ・ ハンカチで鼻と口を押さえ、煙を吸わないように気をつける。
 - ・ 室内は壁づたいで、廊下は中央を低い姿勢で歩行。
 - ・ エレベーターは使用しない。誘導灯が目印。
- *授業中など教職員の避難誘導がある場合は、その指示に従って行動してください。避難誘導は、**構内非常放送**でもお知らせします。

● 日頃の準備と災害時の行動

日頃の適切な準備で被害を軽減

どんな準備が必要か家族で相談しましょう。

- ・避難場所の確認(大学および自宅周辺)。
- ・家族との連絡や待ち合わせ場所等の確認。
- ・災害用伝言サービス等の登録や確認。
- ・帰宅ルートや徒歩での所要時間の確認。
- ・情報収集手段や防災グッズ等の確認。
- ・緊急時メモの作成や連絡リスト等の整備。

災害時の行動は正確な情報と冷静な判断で

迅速な行動が身の安全につながります。

- ・正確な情報を集めて集団で行動する。
- ・(安全確認後に)負傷者の救護を行う。
- ・周囲の危険を把握して避難路の確保。
- ・家族の安否連絡や安否確認メールへ返信。
- ・避難の場合は最小限の荷物で徒歩移動。

● 携帯電話各社の災害用伝言サービス



docomo



au



SoftBank



Y!mobile



Y!mobile(他社携帯から)



e-mobile

緊急避難グッズ

日頃から準備・携帯をお勧めする物

	現金・小銭
	身分証明書(学生証・運転免許証・健康保険証など)
	学生手帳(家族等の連絡先)・避難用マップ
	タオル・絆創膏・包帯
	カッパなどの雨具・防寒具
	手回し充電器・ラジオ・簡易ライト
	ティッシュ・ウェットティッシュ
	ビニール袋(大きなもの)
	チョコレート・飴など
	油性マジックペン
	携帯用充電器・ケーブル・乾電池

非常時の避難用品

預金通帳	ロープ・ひも
印鑑	ろうそく
常備薬・お薬手帳	予備電池
衣類・ヘルメットなど	缶切り・栓抜き
運動靴	スリッパ
リュック	洗面用具
卓上コンロ	カイロ・保温シート
懐中電灯	非常用食料・飲料

● 災害時の帰宅

多くの人が一斉に帰宅すれば混雑が発生します。余裕を持って周囲の状況を把握しましょう。

災害時は自宅周辺までの通行が困難であると予想されます。事前にハザードマップや避難用のマップなどで日頃から情報の把握をして、徒歩での帰宅を想定することも重要です。

また、日没後の行動は危険です。災害時の歩行速度は普段の半分程度になるため、20kmは約8時間かかります。徒歩での移動は7時～17時の時間帯、悪天候の時は8時～15時の時間帯をお勧めします。夜間は街灯が消えている場合もあるため、懐中電灯などで地面を照らしながら危険物を避け、慎重に歩く必要があります。犯罪に巻き込まれる可能性もあるので、一人での行動は避けましょう。

なお、帰宅困難者支援施設（公共施設、コンビニエンスストア、ガソリンスタンドなど）として指定される場所は、情報収集などのために利用することができます。

地震後、大学の指示に従って帰宅する学生は、正門で「災害罹災時の緊急連絡カード」を提出してください。非常食や水などは各自で確保しましょう。

なお、帰宅できる目安は20 km以内(新宿、高尾、羽村、入間、溝の口など)です。



東京都防災サイト



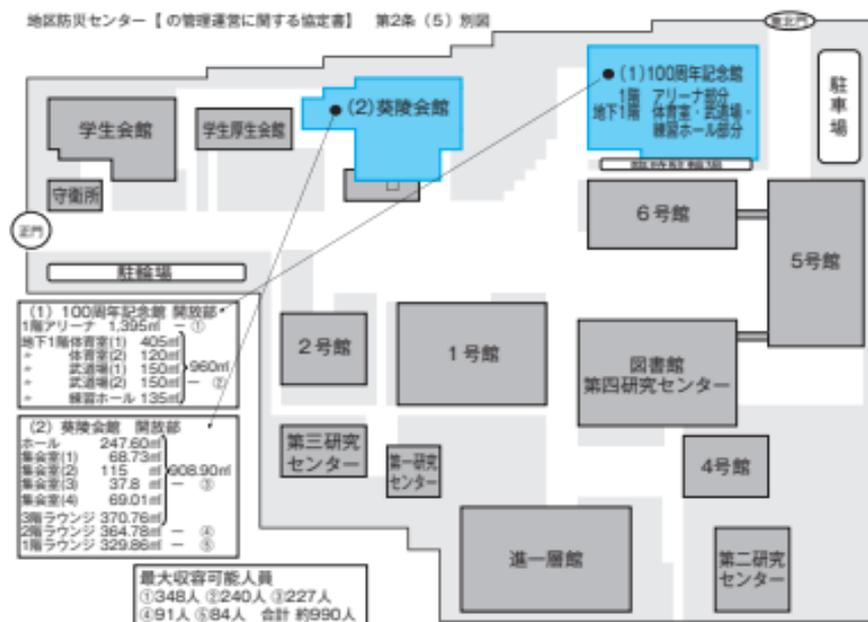
(携帯電話向サービス)

※自宅周辺または通学時の場合

- ・ビル、塀、電柱、自動販売機などから離れて落下物や転倒物に注意する。
- ・携帯電話、ラジオなどで正しい情報を得る。
- ・事前に家族と相談して決めていた避難場所または(被災場所や周囲の状況に応じ)安全を優先した近くの避難場所に移動する。
- ・緊急地震速報、役所の防災無線、警察、消防、交通機関などの指示に従う。

国分寺キャンパス 地区防災センター開設時 開放施設図

地区防災センター【の管理運営に関する協定書】 第2条(5)別図



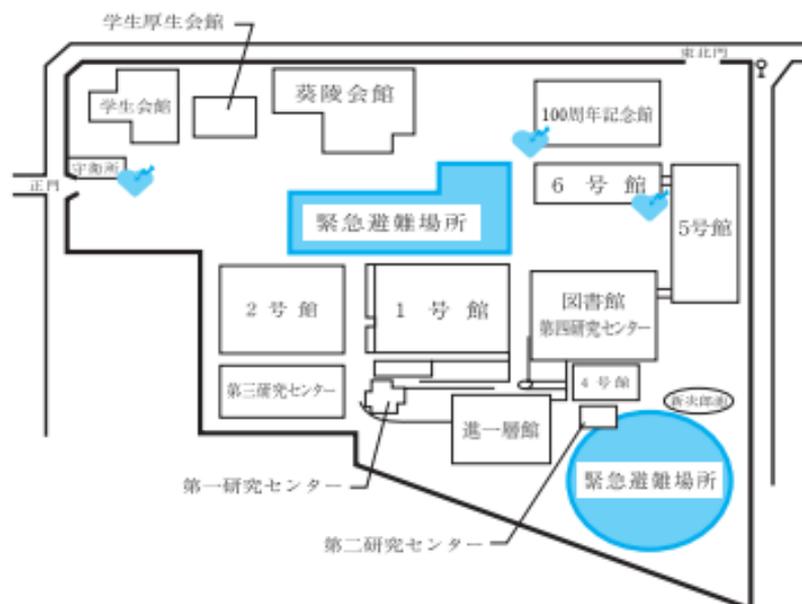
2011年4月、東京経済大学(国分寺キャンパス)は災害発生時に安全確保のため、被災した市民を一時的に受け入れ保護する国分寺市「地区防災センター」に認定されました。

国分寺市「地域防災計画」によりますと、「地区防災センター」は、大規模災害の発生時に避難場所となり、医療救護や物資配付、情報伝達の機能を有する地域の拠点と定義されています。

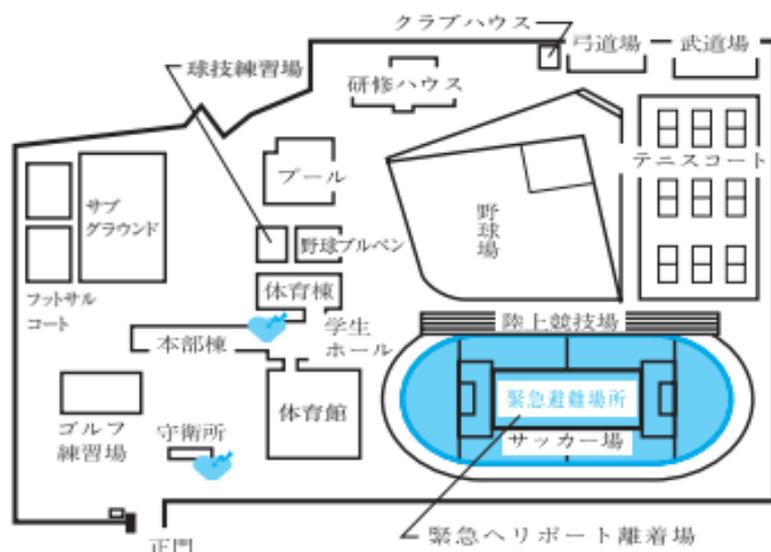
同市との協定で、国分寺キャンパス内施設のうち、避難場所として想定されているのは「100周年記念館」の1階アリーナと地下1階体育室等、「葵陵(きりょう)会館」1~3階開放部で、合わせて約990人の受け入れとなっています。

国分寺市職員と本学教職員が主に運営を担当しますが、災害状況によっては学生のみなさんにボランティアとして協力していただくことがあります。

国分寺キャンパス緊急避難場所案内図



武蔵村山キャンパス緊急避難場所案内図



*なお、武蔵村山校舎のサッカー場は武蔵村山市の災害時緊急ヘリポートに指定されております。これは広域避難場所とは異なり、災害時には緊急離着陸場としての機能が十分に発揮できるよう、発災時には地域避難住民の進入を防止する措置をとることになります。

 : AED設置場所

● 安否確認システムへの対応

東京で震度5弱以上の（気象庁の緊急地震速報が発令される）地震が発生した場合、大学からは学生全員に対して、大学で付与している学籍番号のTKU メールアドレスと事前に登録されている携帯電話のメールアドレス宛てに安否確認の E メールを送信します。メールを受信したら、指示に従って速やかに返信してください。

このため、個々人が「TKU ポータル」で事前のメールアドレス登録をする必要があります。未登録の場合だけでなく、メールアドレスを変更した場合にも「マイプロフィール」で必ず修正の登録をお願いします。

● 学校への被害状況報告

自宅等の被害があった場合には大学へEメール・FAX・ハガキなど何らかの方法で連絡してください。

緊急時の覚書

家族の連絡先メモ

自宅の避難場所

家族との集合場所

持病

常備薬

アレルギー

●NTT災害用伝言ダイヤル

災害時の連絡方法について、あらかじめ家族と確認しておきましょう。災害用伝言ダイヤルは災害時に使用できます。

【伝言の録音】

【伝言の再生】

①⑦①へ電話をかけます

▼ ガイダンス ▼

①をダイヤル
(暗証番号あり:
③と4桁の数字)

②をダイヤル
(暗証番号あり:
④と4桁の数字)

▼ ガイダンス ▼

市外局番+
自宅の電話番号

市外局番+
連絡を取りたい被災
地の電話番号

ガイダンスに従って録音(再生)します。

伝言録音時間:1伝言あたり30秒以内
伝言保存期間:録音してから48時間
伝言蓄積数:電話番号あたり1~10伝言

携帯電話各社でも災害発生時に「災害用伝言板」等のサイトが利用できるようになります。利用方法を確認しておきましょう。

● 暴風雨時の防災対策

地域の気象情報に注意

注意報・警報やハザードマップなどの情報を集め、安全を確かめましょう。

また、危険防止のため、外出は控えましょう。

突風や落雷の恐れがある場合はビル等に避難

竜巻などの突風は動きが早く、雷は高い所に落ちる性質があります。雲行きが怪しくなったり、ゴロゴロと雷鳴が聞こえたりしたら、すぐに安全な場所へ移動しましょう。

- ・ 避雷針がなく、窓が多い建物は危険。
- ・ 屋外でのスポーツ活動、見学などは危険。
- ・ 高い木の下での雨宿りは特に危険。

● 倒れている人がいたら

1. 意識があるか声をかけて確かめる。
2. 意識がない場合は気道を確保して脈拍を確かめる。
〈気道確保〉あごをあげて気道がまっすぐになるようにする。首の後ろに上着などを入れるとよい。
3. 学内では近くの**事務室**や**医務室**または**守衛所**に知らせる。倒れている人の意識がない場合は、**AED**が必要であることを伝える。近くに**AED**がある場合は、自分で**AED**の音声ガイドに従い、操作をして救命活動を行う。

③避難時の注意事項

- ・できるだけ当該授業の教員を中心にひとかたまりになって、冷静に待機。
- ・友人等が避難しているかどうか確認する。
- ・火災や負傷者を発見した場合は、できる限りの自衛消防活動や応急処置をすると同時に、周りの人間と協力して、守衛所か医務室へ（または身近なスタッフに）連絡する。
- ・建物内に取り残された者がいる場合も守衛所か教職員に連絡する。

部室、食堂、ラウンジ等にいる場合

- ・建物内にいる場合は、①と②に沿って行動する。避難所では、友人や仲間同士でひとかたまりになって、指示があるまで、冷静に待機する。
- ・建物外にいる場合は、頭上からの落下物、ガラスの飛散に気をつける。その後、②に沿って行動する。
- ・揺れがおさまってから使用中の電気器具はコンセントを抜く。

④家族との安否連絡や情報収集

情報収集の上で、徒歩で帰ることが可能な場合は帰宅。無理なら避難場所で待機。

● 緊急連絡先(被害状況連絡先)

〈キャンパス外〉

合宿など課外活動でケガ人や重病者が発生した場合など

〈キャンパス内〉

火災の発見や不審者、ケガ人を見かけた場合など

➡ 守衛所に連絡 ☎042-328-7711 (24時間対応)

*各建物廊下にある緊急用電話も使用できます。(内線2250)

災害罹災時の緊急連絡カード提出先

〒185-8502

国分寺市南町1-7-34

東京経済大学 学生課



gakusei@s.tku.ac.jp

FAX.042-328-7780 ☎042-328-7759

● 緊急情報 / 休講情報

TKUポータル

<https://portal.tku.ac.jp>